

萬葉集略解 十六

柳田文庫  
文庫11  
A 104  
27





萬曆庚申年十八

天年二十一年歲三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日

庚申年三月二十五日





文庫11  
A 104  
27

柳田泉文庫

48 10665



萬葉集卷第十八

天平二十年春三月二十三日左大臣橘卿使田邊史福  
 麻呂饗越中守大伴家持館時新作并誦古詠各述心緒  
 歌四首本久橘家之使者造酒司令史田邊○于時期之明日二十四日將遊  
 覽布勢水海仍述懷各作歌八首○二十五日大伴宿禰  
 家持往布勢水海道中馬上口號二首○同日至水海遊  
 覽時各述懷作歌六首○二十六日掾久米朝臣廣繩館  
 宴饗田邊史福麻呂歌四首○太上皇御在於難波宮時  
 歌七首 左大臣橘宿禰歌一首 和左大臣歌 御製  
 一首 於左大臣橘卿宅御船所江遊宴時御製一首  
 河內女王奏歌 粟田女王奏歌一首 御船以綱手所  
 江遊宴時史福麻呂傳誦歌二首

この日深のましましきまきしは、  
 矣仲がいつらんく太上皇所在於



雖改宮内府七そとのこまは是れは、舟船以て信通之人田邊史福麻呂是也、  
 七その終りたるは、舟江遊宴時の二そ、張るありて、舟船を信通也、  
 一、舟船の舟、右件舟者舟船以て、舟江遊宴之日作也、舟船を信通之人  
 田邊史福麻呂是也、舟船を信通之人、舟船を信通之人、舟船を信通之人、  
 ○後追和橋大伴家持歌二首 ○山上臣射水郡驛館之  
 屋柱題著歌一首 ○四月一日椽久米朝臣廣繩館宴歌  
 四首 ○先国師從僧欲入京設飲饌饗宴時主人大伴家  
 持詠庭中牛麥花歌一首 六本僧と  
館に誤り ○大伴家持重作歌二  
 首 ○三月十五日越前國椽大伴池主來贈歌三首 十  
 六日越中守大伴家持報贈歌四首 ○姑大伴氏坂上郎  
 女來贈越中守大伴家持哥二首 大伴家持報歌一首  
 ○又別所心歌一首 ○天平感寶元年五月五日饗東大  
 寺占墾地使僧平榮時守大伴家持送酒歌一首 ○同九  
 日諸僚會少目秦伊美吉石竹館飲宴時造百合花縵捧

贈賓客各賦此縵歌三首 ○十日大伴家持獨居幄裏遙  
 聞霍公鳥喧作歌一首并短歌 ○行英遠浦之日作哥一  
 首 守大伴家持の  
字を脱せり ○天平感寶元年五月十二日守大伴家  
 持於越中國館賀陸奥出金詔書歌一首并短歌 ○幸行  
 芳野離宮時諸作歌一首并短歌 此文幸行の字の上為の  
字を脱せり ○十  
 四日大伴家持為贈京家願真珠歌一首并短哥 ○十五  
 日大伴家持教喻史生尾張少咋歌一首并短哥 ○十七  
 日大伴家持先妻不待夫君使自來時一首 此月福語は、史生  
尾張少咋前妻不待  
夫君使自來時大伴家持  
作哥一首とあり ○廿三日大伴家持橋歌一首并短歌  
此文子関  
五月し ○二十六日大伴家持詠庭中花作歌一首并短  
 歌 ○椽久米朝臣廣繩天平二十年附朝集使入京天平  
 感寶元年閏五月二十七日還本任時大伴家持作歌一



首并短歌 本文二條、任時の下館設詩酒宴樂飲於時 ○霍公鳥歌一

首 大伴家持の字と脱せり ○二十八日大伴家持為向京見貴人及相

美人飲宴日述懷儲作哥二首 ○六月朔日晚頭守大伴

家持忽見雨雲氣作歌一首短歌一絶 ○四日大伴家持

賀雨落歌一首 ○七月七日大伴家持七夕哥一首并短

歌 ○越前國大掾大伴池主來贈戲歌四首 ○更來贈歌

二首 ○天平勝賢元年十二月大伴家持詠雪月梅花哥

一首 ○少目秦伊美吉石竹館宴守大伴家持作歌一首

○同二年正月二日於国廳給饗諸郡司時大伴家持作

歌一首 ○五日判官久米朝臣廣繩館宴時大伴家持作

歌一首 ○二月十一日守大伴家持忽起風雨不得辭去

作歌一首 本文より十八日録檢察壘田地事宿礪彼郡主帳多治比部北里之家于時忽起風雨

天平二十年春三月二十三日左大臣攝家之使者造酒

司令史田邊福麻呂饗于守大伴宿禰家持館爰新歌并

使誦古詠 後紀天平十一年四月正六位上田邊史難波のよ人史福

麻呂、此歌、核の雄略紀田邊史伯孫といふも、さうさ、遠つれま

し、攝家目録に攝家史の元房が子の下時のさう、拾遺本新哥の上

作のさう、元房が并の下使と便に他

各述心緒 と本方の標より、使げ、ふ、れ、お、ま、れ、は、ま、ち、ま、

奈吳乃字美雨布禰之麻志可勢於伎爾伊泥氏奈美多知

久夜等見底可敝利許牟

なごのうきよよねまいかせおきまいてなみちちやこてかみん

奈美多底波奈吳能字良未雨余流可比乃未奈伎孤悲雨

奈美多底波、よよ出、再暫一借せ



曾等之波倍爾家流

なみそへちごのうらまはよるかしのまきさこいよぞごうはつら

上ハ乃々をとのてん序々

奈吳能宇美爾之保能波夜悲波安佐里之爾伊泥牟等多  
豆波伊麻曾奈久奈流

なごのうごにさかのばやしあせわいんごんとたづいまがさくち

干流の波をハ勢の求合せむしそゆよと

保等登藝須伊等布登伎奈之安夜賣具佐加豆良爾勢武  
日許由奈伎和多禮

ほとぎさしとよとまのあめごさかづふさむいひさきつら

此のまてすは改まぢやあそふはしり此等三月まゝ四月のまよみん

右四首田邊史福麻呂

于時期之明日將遊覽布勢水海仍述懷各作歌

和名抄

越中射水郡布西とゆは室室期之の之ハ云の後

伊可爾世流布勢能宇良曾毛許已太久爾吉民我彌世武  
等和禮乎等登牟流

いのれせるふせのうらそもくかきみのかせんとわれをよむる

いつよせるハいうちとる伊可爾の下世とえ廣本安もいふふあるハい

さうもくいひつてうらおとるまよきの海みくあれごしうらいつれ

つゝまぐ

右一首田邊史福麻呂

乎敷乃佐吉許藝多母等保里比禰毛須爾美等母安久倍  
伎宇良爾安良奈久爾

まのせまごぎたわとほういねもはふみとあつたうらあふま



多麻又之氣伊都之可安氣牟布勢能字美能字良乎由伎  
 都追多麻母比利波牟  
 一云伎美我等波須母 二のるんたのちよいふせるとよあるとて  
 一とてり

右一首守大伴宿禰家持

多麻又之氣伊都之可安氣牟布勢能字美能字良乎由伎  
 都追多麻母比利波牟

たまたぐげいついあけむせのうみのうらをゆきつたまたひりん  
 むくがらんといんをんひりん八拾ん

於等能未爾伎吉底目爾見奴布勢能字良乎見受波能保  
 良自等之波倍奴等母

此のまにきうてめふこぬせのうらをみさのたうと一はつぬいし  
 十のやういふへのりういふ

布勢能字良乎由吉底之見豆波毛母之綺能於保美夜比  
 等爾可多利都藝底牟  
 ふせのうらをゆきてみてむりまのおかきびんかうりぎてん

波と元磨を婆みゆるがよきとてぐりてあうばこ

宇梅能波奈佐伎知流曾能爾和禮由可牟伎美我都可比  
 牟可多麻知我底良

うめのまをさきちるそのよわれゆるんきみづつしをがまちかてら  

 本十のまほりて裁くる古ちちをて福をすあつてりもて編  
 くるふふんハ福よらの括帳一お坊の伎のまんと結がてる梅の花  
 一とてりよふれア

敷治奈美能佐伎由久見禮婆保等登藝須奈久倍吉登伎  
 爾知可豆伎爾家里



ふちなみのさきゆくればかきぎすあきぎとたよちのびきふけと

右五首田邊史福麻呂

安須能比能敷勢能宇良未能布治奈美爾氣太之伎奈可  
須知良之底牟可母

あまのひのよせのうらまのよちなまにきあのぶちらしてんのも

一本のわきまきすとぞぞよきえ原本伎奈の頂の頂と受ふ能ふ不來

鳴へりくすけの鳴ぬるよ藤花のおんこと惜むこ

一頭云保等登藝須

右一首大伴宿禰家持知之

前件八首歌者二十四日宴作之

二十五日往布勢水海道中馬上口號二首

目録に大伴家持

波萬部余里和我宇知由可波宇美邊欲利牟可倍母許奴  
可安麻能都里夫禰

はまよわわのうちゆのばうみよらむらうもぬあまのつらね

うちゆのうらまよきとゆらまいつらむらうもぬあまのつらね

うらとゆらね

於伎敝欲里美知久流之保能伊也麻之爾安我毛布伎見  
我彌不根可母加禮

おきよらみちくるまかのいやすよあがそはまのいもねうもかれ

一二の白いやまらまといんるきみかハ踊るををよは彼はまらまら

が舟らもとりをかくらりまらあしよらうらくるまかのいもねうも

至水海遊覽之時各述懷作歌

目録に水海とあるとん改目録に化歌六首とあり



可牟佐夫流多流比女能佐吉許伎采具利見禮登裳安可  
受伊加爾和禮世牟

かんさぶるたるひめのこきこきめぐちみねあつぱいのりれせん  
たうひめのほ布幣の湖の内の名と足ゆを十九無煙よちあ  
つくとよあやうりれくあうぬあまうりにあいのハせんと非しこ

右一首田邊史福麻呂

多流比賣野宇良乎許藝都追介敷乃日婆多奴之久安曾  
敞移比都伎爾勢牟

たうひめのうらうをこぎつげのひいたぬくあうべいしぎよせん  
野ハうらうて之のこいひしぎよせんはのういしぎよせんやと日  
の下婆一本波まゆ

右一首遊行女婦土師

不<sub>二</sub>夫<sub>一</sub>

多流比女能宇良乎許具不禰可治未爾母奈良野和藝敞  
乎和須禮氏於毛倍也

たうひめのうらうをこいひかぢまたなうのわぎをわはれあや  
夫禰くをなまのほ之のほあは信く改つ夫ハ信をあて用られを  
かぢまハ織つてあうていあまきひくうとる皆ハ奈良の神家と思われ  
やとと、あハほくあ何の

右一首大伴家持

於呂可爾曾和禮波於母比之乎不乃宇良能安利蘇野分  
具利見禮度安可須介利

おろのふぞとれはむひしをのうらうのあつこのあうあうあう  
とつとでいおろそくふあひり

右一首田邊史福麻呂



宿婆  
有八誤

米豆良之伎吉美我伎麻佐波奈家等伊比之夜麻保等登  
藝須奈爾加伎奈可奴

めづらきみよのまをせばなけしむやまほくまふあふまきちうぬ  
月しきひよいんせおきつるさかんいしううら波一本婆に依る

右一首椽久米朝臣廣繩

多胡乃佐伎許能久禮之氣爾保登等藝須伎奈伎等余米  
婆波太古非米夜母

たこのときこのくれまげよほくまふあふまきちうぬ

婆波しを借て下よせりえ麻がふよりて改こみくれまげ八木岡  
盤こよあり令響者こいしやハ霞とをきりてり

右一首大伴宿禰家持

前件十五首歌者二十五日作之

十五日作之ハ八そふハちの

五解十八七

服するれ

椽久米朝臣廣繩之館饗田邊史福麻呂宴歌四首

保登等藝須伊麻奈可受之且安須古要午夜麻爾奈久等  
母之流思安良米夜母

ほくますいまちのりぞしくあまこえむむあふまきちうぬ

こののさあ度まきこくやめりしあまこえむむあふまきちうぬ  
わんこ

右一首田邊史福麻呂

許能久禮爾奈里奴流母能乎保等登藝須奈爾加伎奈可  
奴伎美爾安敬流等吉

このくれなまふあふまきちうぬ  
二月のあふくまや美爾安敬流等吉



右一首久米朝臣廣繩  
保等登藝須許欲奈和和多禮登毛之備乎都久欲爾奈蘇  
倍曾能可氣毋見牟

ほよききこよたまきわいれそいびをつくよけあぐそののげもこ  
こよハこゆと目ト、從母のこ言をまれば、蛇と月夜よまごうて、そけ  
きとの新とくんと

可敬流未能美知由可牟日波伊都波多野佐加爾蘇泥布  
禮和禮字事於毛波婆

かふるまのみちゆいひいつもこのせうたそであれこれをもおもひ  
心ええ越年より越あつの團く御まよ二のるあり、いつもごえい海津  
おまのめとろハ敷女のほくを、まきのあそろハこもたそこのま  
也といひ、かふるまハ、ゆの路の程く、いつも、まゆゆハ、神名帳越

前敷賀郡加比苗神社又鹿蒜神社あり、かふる山とそある。く  
ゆれば、此可敷流ハ比あま、まの河ハ浦ま磯まをのま、甲うえ、  
いつも、ハ敷賀郡五幡神社と、ゆ、佐加ハ坂ハ、はのう、かふるま  
いつも、よ、合せ、さ、事ハ、此、い、思、苗、事、也、里、と、ち  
これハ、信、言、り、用、ひ、

右二首大伴宿禰家持  
前件歌者二十六日作之

信足姬  
天皇也

反、元、正、天皇、と、す

太上皇御在於難波宮之時哥七首  
左大臣橘宿禰歌一首  
保里江爾波多麻之可麻之乎大皇乎美敷禰許我牟登可  
年且之里勢婆

ほろろよいたまここのま、おたまこのよねこ、かぬく、ち、せ、ハ

皇ノ下  
ハ之ノ誤



ほついの橘津、皇の下手ハ之の湯也

御製歌一首 和

元正天皇の御ことさうへ、和のまはほ人の加へまらん

多萬之賀受伎美我久伊互伊布保理江爾波多麻之伎美  
互々都藝互可欲波牟

たままのすまみのくいていほつるまいたままきみてつぎそかならん

君ハ橘根とさうへまらちむさのまらとくゆてりやわいふむとあ

て、修く、このきくおんこくまきまらこ

或云多麻古伎之伎互

こまかきこいさひくくゆ

右二首件歌者御船游江遊宴之日左大臣奏并御製

二首とて一首と誤れり

御製歌一首

多知婆奈能登乎能多知波奈夜都代爾母安禮波和須禮

登乎能  
ハ登能  
ノ誤

自許乃多知婆奈年

たちばなののいしちばなやつたれあれはわすれどこのいしちばなを

次下の方ハ登能乃とらをるとあれはくくも登乎能ハ登能之と云

を修るるまらぶし、橘マの歌の意の橘されはくよあせりまらん

やつたハ保也とすつハ必解とこれハわすれり、いハ後更マのいしち

と忘れぬと、のいしちてかのためよとあつてん

河内女王歌一首

後紀天平十一年四月後四位下より從四位上と振

とらよちのいしちとあつてん

多知婆奈能之多泥流爾波爾等能多互天佐可彌互伎伊  
麻須和我於保伎美可母

たちばなののいしちちばなやつたれあれはわすれどこのいしちばなを

きつてハ橘の子の色けり、登乎能とら、登乎九まの苑わたりハ桃の花



下照通の如きをあらとあり、以下の比多てるとハ長く宣せ候よ、  
とてそのハ冠解考の秋山吉日下と名をきくハ紅葉のよーいそり  
ゆく、とてハ赤く照るよとあり、赤云とてハいそりハ山下ハいそり流ち  
とてそのよー照るよといつ、とてのみづきハ此赤くハいそり流ち  
彼美<sup>内</sup>屍とあるとてハ水浸きとて沈むとてハ沈酔の身とて  
べー、此下ハ左加美都伎ありとてハ十九酒見<sup>ハ</sup>附<sup>ハ</sup>榮<sup>ハ</sup>ゆ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>き  
もいつ、神名帳造酒司坐神六座、酒味豆男神酒味豆女神と  
いつ、神名ハ今ハハあるよとてハ

粟田女王歌一首 後紀天平十一年正月從四位下より從四位上を授  
とて、その後ハかしく、まはゆ、ハハ一その字取たり、同隔より、  
都奇麻知豆伊敝爾波由可牟和我佐世流安加良多知婆  
奈可氣爾見要都追

つまもつていよハゆらんわつとせもあらうともぞれかげよみそつ  
我をせよハ掃除ハあらうとて掃除の赤くをけきとてハ月影ハ照る  
ハ無あらんとてハ月影ハ我のまハゆんとてハ信ハ詞ハとてハ  
やうされど、新ハとてハをうとてハ人ハとてハかくハハせとてハ  
ちとてハ古とてハあや

右件歌者在於左大臣橘卿之宅肆宴御歌并奏歌也  
神の下製の字を取せり

保里江欲里水乎妣吉之都追美布禰左須之津乎能登母  
波加波能瀬麻宇勢  
ほりえよみさびきつみやねとてハつとてハかのせとてハ  
とてハ水脈とてハみちのゆとてハとてハとてハとてハ  
みとてハきゆけとてハとてハ下男之伴とてハとてハ







かぢとつりつゝあゝの情るきとていひてけしうつそらつそらハ其まほ  
茅原曲ツラクとよあるやくつまびらうと男の詞をく切てまのんちんこ  
思ふとく上の都波の波ハ婆の語

右一首山上臣作不審名或云憶良大夫之男但其正名  
未詳也

四月一日椽久米朝臣廣繩之館宴歌四首

宇能花能佐久都奇多知奴保等登藝須伎奈士口等與米余  
敷布美多里登母

布下美  
里二誤

うのえはのさくつきこちぬほくぎさきまきとらぬふらふら  
と本敷布里とらぬ一も信く改つたふハ折候ぬとのそん

右一首守大伴宿禰家持作之

敷多我美能夜麻爾許母禮流保等登藝須伊麻母奈加奴

香伎美雨妓可勢牟

かぢこのやまにこりれるほとぎさいまもかのぬのきみよさうせん

考十九二上のものを一の勢は許毛爾之波はもとまきすまてといまぶさる

うらぐりよまかたの許毛尔の尔ハ里の深きま一妓一本伎美雨

右一首遊行女婦土師作之

字里安加之許余比波能麻牟保登等藝須安氣牟安之多  
波奈伎和多良牟曾

をりあのこよひのまんほとぎさあかんあしハまきけしんぞ

とらあしハ居明し之ハんれハ新のまぶさるはあまらう西飲つる

とわら

二日應立夏節故謂之明且將喧也

右一首守大伴宿禰家持作之



帳ヲ振  
臣ヲ巨  
ニ誤

安須余里波都藝豆伎許要牟保登等藝須比登欲能可良  
爾古非和多流加母

あきよあへびぎそきこえむほとぎよひとよのからにこひけるが

右のほとぎとくひるま夏るん神代紀一夜間とひとよの

こつらあつとよのち

右一首羽咋郡擬主帳能登臣乙美作 職負令子大郡主帳

三人掌事上抄勘署文案檢出誓失瀆申公文云云擬と

いふハ文章生の擬生のぬくもる一臣と巨は得る古本は依

る改結登臣ハ古る記垂仁條齊明紀傳記をハちるに及る

詠庭中牛麥花一首

此中一切は我第十二の瞿此謂云牛  
もこれよまゝ瞿麦と牛麦とわづかとやふ瞿麦の瞿ハ枕

法へとまゝれし牛と枕後瞿と或ハ遇の字を用ふ瞿ハ枕後よハ

漢字小用しやう目録子一首とるこゝの字と服セリ

比登母等能奈泥之故字惠之曾能許己呂多禮爾見世牟

等於母比曾采家牟

ひよものなでこらと一そのころねみせんとおもひるめらん

そのころねみせんとおもひるめらん

右先國師後僧清見可入京師因設飲饌饗宴于時主人

大伴宿禰家持作此哥詞送酒清見也 送ハ贈と通用

之奈射可流故之能吉美能等可久之許曾楊奈疑可豆皮

枳多努之久安蘇婆采

たまさのさののさののとかくこそやわががづきいぬくあそびめ

吉美能の能ハ字ありて是等中係をり之原を吉美良と名かづきハ







予あらぬば、我の字の下波と取せる。

一 所心耳 拾後本耳と寄、他もぞよき。

安必意毛波受安流良牟伎美乎安夜思苦毛奈氣伎和多  
流香比登能等布麻泥

あひいひいどあるらんきみをあやしくなばわくこころいよのこよるぞ  
被りりいぬぬあのと何ぞや人のとむむやあやききやて教りてさる  
といふ男女あやのこまたよるる

越中國守大伴家持報贈歌四首 大伴の守名祿の字と取せり

一 答古人云

安之比奇能夜麻波奈久毛我部奇見禮婆於奈自伎佐刀  
牟許已呂敝太底都  
あーひのやまはくもむぎこればおちきやとをこころいひてつ

先古方々あふぶ、家持この方々、ちくしくのわい、能く通るなりけ

一 答屬目發思兼詠云遷任舊宅西北隅櫻樹 上は屬物

とあれは月ハ物のほろも、昔とて下りてかくも、比を越すの役あり  
時の氣の揚へ、今比を越前を立あつた越中よ、ちかよかくいり

和我勢故我布流伎可吉都能佐具良波奈伊麻太敷布賣  
利比等目見爾許禰

わのせこのあふきかすこのせくらをましましやめあひとあにこれ  
せこハ比をせよ、かきつハ城内、具ハ馬寄、俱ハ法言子用これハ  
俱のほろなるる

一 答所心即以古人之跡代今日之意 右の字をいそるる  
故敷等伊布波衣毛名豆氣多理伊布須敝能多豆伎母奈







まきあそこのよ原せやうば盗人がとるべきと物もい

越中守大伴宿禰家持報歌并所心三首 目下五指寄二

又所心一そとろこへハ下ニ別所心と奉るれば報寄二首とて并  
以下の五字別をい

安萬射可流比奈能都夜故爾安采比度之可久古非須良  
波伊家流思留事安里

あまばのるひまのこをこあめびとのかくひすらばいぐるまをいあ

都ハ美の語らひまのこをこハ國府とてい遠のみをこをりまをこ  
同じとあはいそれきえ原ハ能の字をくひまつてやこみかを付あ  
浪を寄る一あめびとハ皇都の人をさたりた信周の國の人と天人と  
いつるまをこをわくれ一まをこ一まをこのおをくはれ一蝶と恋と云  
蝶と恋と云一まをこかくひまをくはれまをこをまをこたのうつと云と

累々る人又室を大まの夜故ハ夜故を深けんとてまをこニ  
まをこ一國府とみやことしてまをこ一なる遠のねとてハ事のまをこ  
ゆりといふに考る

都禰能孤悲伊麻太夜麻奴爾美夜古欲利宇麻爾古非許  
婆爾奈比安倍牟可母

つねのこいまごやまぬのみやこよあまをこいこふたしあへむかも

我をさる人のあむままこよまをこは原まをこは原のまをこといふ

別所心一首

安可登吉爾名能里奈久奈流保登等執須伊夜采豆良之  
久於毛保由流香母

あのとまよなのおまくるまをこまをこいあめづらくおしあゆるかも

よハまのまをこをりてあづらくとん原とせりあ女のまをことのと















うのそぢのせくしあけはほとぎもいやめづりもたのめなくあ  
開之唐本登聞之作、こそあけはとかさつけり用のこまもるる、ま  
至くおろすの事とたよるゆえかくいり

保登等藝須伊登禰多家口波橘能播奈治流等吉爾伎奈  
吉登余年流

かとうぎとていねけくたぢまのそあちるときよさちさよとよむる  
橘の枝を結むるもそくずくも思はるるがねくまこと神代紀慷慨  
をねしし州治の溜方をあさはいり知の得れ

右四首十日大伴宿禰家持作之

行英遠浦之日作歌一首

安乎能宇良爾餘須流之良奈美伊夜未之爾多知之伎與  
世久安由乎伊多美可聞

あとのうららよするまらたもこいやましたちきよせくあゆをいりか  
あとの海こいものこゆり越中いさる一たりきよせくい依の起重き  
まこあゆのそ思とよき十七の自記も まま箱一扉入御月

右一首大伴宿禰家持作之

賀陸奥國出金 詔書哥一首 并短歌 倭紀聖武天皇天

平廿一年丁巳陸奥國始貢黃金、同年四月甲午朔天皇幸東大寺御  
盧舍那佛像前殿、勅遣左大臣橘宿禰諸兄白佛三宅乃奴止仕奉、流天皇  
命盧舍那像、能太前、仁奉賜、部奏、久此大倭國者、天地開闢以來、承黃金、波人  
国用獻言、波有、登斯地者無物、止念、部流、能聞看食國中、能東方、陸奥國守  
後五位上、伊百濟王敬福、部内少田郡、仁黃金在奏、氏獻、此遠、聞食、伎  
云くとも詔書のこをいり、波を哥の注よあくいり

葦原能美豆保國守安麻久太利之良志賣之家流須賣呂



あしらのみづかふをあまぐふらきらへしける。ゆめろ  
伎能神乃美許等能御代可佐禰天乃日嗣等之良志久流  
きのかこのみことのみやかさねあまのいつきときらくる  
伎美能御代御代之伎麻世流四方國爾波山河乎比呂美  
きみのみあきまきませるものくつハやまかをもいろこ  
安都美等多豆麻豆流御調寶波可蘇倍衣受都久之毛可  
あつとたてまつらみつきだらハかぞへえすつくしもか  
禰都之加禮騰母吾大王能毛呂比登乎伊射奈比多麻比  
ねつあれどもわがおほきこのもろびとをいごまひまひ  
善事乎波自米多麻比豆久我禰可毛多能之氣久安良牟  
よきことをはドめまひてくがねのしたのけくあらむ  
登於母保之豆之多奈夜麻須爾鷄鳴東國能美知能久乃

とおしかりてとるなやまのにどうがくあつまのくよのみちのくの  
小田在山爾金有等麻字之多麻敬禮御心乎安吉良米多  
をだたるやまのくがねあまのたまれををあきこめ  
麻比天地乃神安比宇豆奈比皇御祖乃御靈多須氣豆遠  
まいあめつちのかこあひつづまひをめろきのみたまたをけてとるま  
代爾可可里之許登乎朕御世爾安良波之豆安禮婆御食  
よにかアールことをわがみよふあらはしてあれをみそを  
國波左可延牟物能等可牟奈我良於毛保之賣之豆毛能  
くふかさかえむものとかむなふらおもほしめしてし  
乃布能八十伴雄乎麻都呂倍乃牟氣乃麻爾麻爾老人毛  
のふのやまのものをまつろへのむけのまふおいびとも  
女童兒毛之我願心大良比爾撫賜治賜婆許已乎







たすむきいひく、そ次の辰ハ系遠つ祀よりのみといひて大津をとかいひて  
大伴能遠都神祖乃其名乎婆大来目主登於比母知三都  
おほよりのとらつかんおやのそのなをばおちくめぬとあひてちてつ  
加倍之官海行者美都久屍山行者草牟須屍大皇乃敝爾  
のつづらみゆのびづくかねやまゆのぐまむすがねおちきこのへま  
許曾死采可弊里見波勢自等許等太互丈夫乃伎欲吉彼  
こそまなめかつちみハせとことたてますらをのきよさその  
名乎伊爾之敝欲伊麻乃乎追通爾奈我佐散流於夜能子  
なをいふへよいまのをつゝよなぶさへるねやのこ  
等毛曾大伴等佐伯氏者人祖乃立流辭立人乎者祖  
いぞおちよととまこのうちいよおやのつとととといひめこおやの  
名不絶大君爾麻都呂布物能等伊比都雅流許等能都可

なたぐすねかきみよまつろふものといひつけることのつ  
佐曾梓弓手爾等里母知互劔大刀許之爾等里波伎安佐  
そぞあづきゆみてよとちてつきたらこころとちばきあそ  
麻毛利由布能麻毛利爾大王能三門乃麻毛利和禮乎於  
まわしゆよのまわしにわかきこのみこののまわしわれをお  
吉互且比等波安良自等伊夜多互於毛比之麻左流大皇  
きそまうしとハあらトといやたておちいませるねかきこ  
乃御言能左吉乃一云聞者貴美  
のここのさきのキけバたよとみ

大伴の遠つ神祖ハ神代紀一書ハ高皇產靈尊以真床覆衾畏天  
津彦国光彦火瓊杵尊則引淵天磐戸排分天ハ重雲以奉降之  
于時大伴連遠祖天忍日命帥来目部遠祖天穗津大来目背肩天







反歌三首

丈夫能許已呂於毛保由於保伎美能美許登能佐吉乎一  
能聞者多布刀美

ますらをのうらむほゆおがまのみにとまをまげばうやと  
一云貴久之安禮婆 そしききのとあらふからどてはかたど

大伴能等保追可牟於夜能於久都奇波之流久之采多底  
比等能之流倍久

おろしのかつかおお代のおくまはさるくまめしてひとのまを  
まあそく標立、それよりく人の知印は標立よりま、まあそく

とつひくまあそくよりまをまらるるまらるの例、まあそくとまあそく  
須賣呂伎能御代佐可延年等阿頭麻奈流美知能久夜麻  
爾金花佐久

西解十八 廿六

まめるまのみよこのろくにあつまあるみちのくにまらんかねま  
こちのくは後奥のこりあうく小田郡のこをいり、あうくあうくの夜  
あまなまらうて金のやうと花咲といひまらうま奇は久我祐と  
まらればこりくがわと川マ

天平感寶元年五月十二日於越中國守館大伴宿禰家  
持作之

為幸行芳野離宮之時儲作歌一首 并短歌

多可美久良安麻能日嗣等天下志良之賣師家類須賣呂  
たのみくらあまのひきとあめのしとちらしめしけるまめら  
伎乃可未能美許等能可之古久母波自采多麻比呂多不  
きのかみのみことのかしこくもはしめたまひてたふ  
刀久母左太采多麻淑流美與之努能許乃於保美夜爾安



名負く  
ハ名負  
ハ誤

どくもきたためたまへるみよぬのこのちぢやあ  
里我欲比賣之多麻布良之毛能乃敷能夜蘇等母能乎毛  
アガよひめいたまふらしものふのやそとものををも  
於能我於敝流於能我名負名負大王乃麻氣能麻久麻久  
おののおへるおののなおしておほきこのまけのましく  
此河能多由流許等奈久此山能伊夜都藝都藝爾可久之  
このあひたゆることあくこのやまのいやぎくふのく  
許曾都可倍麻都良采伊夜等保奈我爾  
くそつうへまつらめいやとかなのに

きくく天の日はぎよまをまひてとハ奇明紀二年吉野  
宮と造とありをいあかかういハまはりの天皇の章一はつと  
めいよふハアヤおほふも一食國と賣之まもくとあふもい

この良之の河ハ事二回物良ク事サつてめま良志まもくと同く集  
中一つの格ましく事のらーのさと号んあつ名負名負ハ定まら名負  
互とましくとむ保れるまん先能より居る家の穢と居てとりつと  
いふまけの麻久くハまうせくとゆまうまうせむつとまはくし  
何の不能めくふの後ろめく遠くはてと又ハ麻久の久ハ余の誤  
おまけのまおくとハまうと

反歌

伊爾之敝乎於母保須良之母和期於保伎美余思努乃美  
夜乎安里我欲比賣須  
いふしをとおほすらしもわごおらさくよぬのみやをわかひめよ  
免をいれんせまよと  
物能乃布能夜蘇氏人毛與之努河波多由流許等奈久都



可倍追通見年

そのよのちそらぢびともよぬのいたゆることなくつらつらみむ

比川のゆくはるまきく御侍ははちうまんとくはるんとみむ

しよのめさはくくまきとまら

為贈京家願真珠歌一首并短歌 真珠紀よまら

珠洲乃安麻能於伎都美可未爾伊和多利豆可都伎等流  
此のあまのおきつみのみにいわさてがづきとる  
登伊布安波妣多麻伊保知毛我母波之吉餘之都麻乃美  
といふあはひたよいほちものもそきよいつまのこ  
許登能許呂毛泥乃和可禮之等吉欲奴婆玉乃夜床加多  
ことのころしでのわのれときよぬまのよとこか  
古里安佐禰我美可伎母氣頭良後伊泥氏許之月日余美

古八左

万曆十八 廿八

余八介

さりあさねがもかきしけづらぶいづこいつきひよ  
都追奈氣久良年心奈具佐余保登等藝須伎奈久五月能  
つなげくらむるちとまほとまきとまきとまき  
安夜女具佐波奈多知波奈爾奴吉麻自倍可頭良爾世餘  
あやめぐさはなたちばなよぬきまどへかづらよせよ  
等都追美氏夜良年  
とつみてやらむ

珠洲の能登へおきつ神はばアウマワそのおきつやへまら  
又、まらまらこの神がもまらまらまらまらと海と別海神とて  
よあ、い後のい、おまら、いあまが、五百千、又、あ、後紀のまら、百  
解をちちまらといふまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
時ゆる日く時ゆる、夜床加多古里、古八左のまらまらまらまら







一云我家年伎波母 いんはよひきやうきりてんまふとく

右五月十四日大伴宿禰家持依興作

教喻史生尾張少咋歌一首 并短歌

七出例云 戸令さいそく凡弃妻須有七出之状一無子二媼佚三不

但犯一條即合出之無七出輒棄者徒一年半三不去云 事舅姑四口舌五盜竊六妬忌七惡疾皆夫手書弃之云

云の上例の字より戸令さいそく雖有弃状有三不去一徑持舅姑之喪

二娶時賤後貴一有所受無所歸云

雖犯七出不合棄之違者杖一百唯犯奸惡疾得棄之

兩妻例云有妻更娶者徒一年女家杖一百離之

詔書云懲賜義夫節婦

謹案先件數條建法之基化道之源也然則義夫之道情

存無別一家同財豈有忌舊愛新之志哉所以綴作數行

之歌令悔棄舊之惑其詞曰 雙坐孤其猶下美猶其本

於保奈牟知須久奈比古奈野神代欲里伊比都藝家良之

おほなむちむくまひこなのかこりていひつぎけら

父母乎見波多布刀久妻子見波可奈之久米具之宇都世

ちつををくれはたよとくめこみればかなしくめぐらつせ

美能余乃許等和利止可久佐未爾伊比家流物能乎世人

みのよのこととわわとかくせまにいひけるものをよのひと

能多都流許等太豆知左能花佐家流沙加利爾波之吉余

のたつることだてちまのそなせけるせうりねそしきよ

之曾能都未能古等安沙余比爾惠美々惠未須毛宇知奈

一そのつまのことあさよひよをみまむもちちな

太つ大  
二誤



渡ハ放  
ノ誤

益ハ溢  
ノ誤

呉ヲ具  
ニ誤

氣伎可多里家未久波等己之部爾可久之母安良米也天  
けきかゝりけまくらとこへまかくしもあらめやあめ  
地能可未許等余勢天春花能佐可里裳安良多之家年等  
つちのかみことよせてるるまのさのかりし

吉能沙加利曾波居互奈今可須移母我何時可毛都可比  
きのせのりぞさよりめてまげのすいものいつらもつらひ  
能許牟等未多須良無心左夫之苦南吹雪消益而射水河  
のうんとまゝもらんころさうくみちまきゆきげをうていづる  
流水沫能余留弊奈美左夫流其兒爾比毛能緒能移都我  
なづるみまわのよるなづるまゝぶるそのこにひものをのいつの  
利安比互爾保騰里能布多理雙坐那具能字美能於伎乎  
りあひてにほどりのうけりならびぬなごのうこのおきを

万解十八 三十一

布可采天左度波世流伎美我許己呂能須敵母須弊奈佐  
ふのめてせとばせるまみあころのまべしすべまき  
言佐夫流者遊行女婦之字也

大まむぢまきまひころのまきまきまきまきまきまきまき  
父母とまきまき父母をんれまきまきまきまきまきまき  
はかくまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
同じまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
よのうぢまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
舞まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
山ちまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
まきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき  
ありまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき











支能  
ノ誤カ

たぢきしとどこよんやうりやほこちよあでうとまごま  
支能香久乃葉子乎可之古久母能許之多麻赦禮國毛勢  
トクのかぐのこのをかこくものこいたまへれくにせ  
爾於非多知左加延波流左禮婆孫枝毛伊都追保登等藝  
小おひたちさのえをるさればいこちもいつほごき  
須奈久五月雨波波都婆奈乎延太雨多乎理互乎登女良  
そちくさつさよはつをちをえぶこさふてをとめら  
爾都刀爾母夜里美之路多倍能蘇泥爾毛古伎禮香具播  
よつと小もやとみいろのそでよもこきれのがハ  
之美於枳豆可良之美安由流實波多麻爾奴伎都追乎雨  
しみにきてからしみにあゆるみはたまにぬきつてに  
麻吉豆見禮騰毛安加受秋豆氣婆之具禮能雨零阿之比

婆ハ波  
ノ誤

まきそみれともあのむあきづけはまぐれのあめあかあし  
奇能夜麻能許奴禮波久禮奈為爾仁保比知禮止毛多知  
きのやまのこぬれくれなぬまにかひちれどもたぢ  
波奈能成流其實者比太照爾伊夜見我保之久美由伎布  
むまのなれるそのこひひてわよいやみうほしくみゆきふ  
流冬爾伊多禮波霜於氣騰母其葉毛可禮受常磐奈須伊  
るふゆふいされはまもおけどもそのもかればときあすい  
夜佑加波返爾之可禮許曾神乃御代欲理與呂之奈倍此  
やさうばえふふこれこそかこのみよあよろらへこの  
橘乎等伎自久能可久能木實等名附家良之母  
たぢきしとまごまのこのことなづけらるも

田邊同守ハ垂仁紀三年春三月新羅王子天日槍來歸焉と云



石のほろ、天日槍娶但馬出島人大耳女麻多鳥生但馬諸助也、諸助  
 生但馬日楯杵、日楯杵生清彦、清彦生田道間守と又ゆ、こころよ  
 わり、こころよ、同紀九十年二月田道間守と常世国を遠て、非時香菓  
 と求し、ゆきよ、今橋より乞也と、まろく、九十九年天皇崩御して  
 及、おろる、年二月田道間守常世国より寶物、非時香菓八竿八  
 緞、と乞ひ、れ、古より記す、同じ、こころよ、三宅連等之祖名、多  
 遲摩毛理と常世を遣とも、あめで、こころよ、信来、一、時の下支、ハ  
 妻の話を、る、人の、こころよ、つれ、は、園、お、た、ま、つ、れ、ど、り、ま、の、國、と、ま  
 ハ、國、と、横、ま、き、を、り、わ、り、ふ、く、孫、枝、も、伊、つ、枝、よ、う、又、ある、枝、を、い、こ、枝、と、よ、  
 も、伊、ハ、も、え、と、通、を、い、り、波、都、宴、奈、の、宴、一、本、波、と、ま、を、ま、き、枝、ま  
 た、を、り、て、ハ、花、と、枝、を、う、ら、ち、て、と、い、ま、つ、と、し、や、ま、み、の、み、ハ、や、ま、  
 と、し、を、と、偽、る、人、お、ま、き、て、かり、み、ハ、本、を、置、枯、り、ま、一、ハ、お、ゆる、ま、ハ、

考八橋のあま玉、五月を述、安要奴のふ、考十秋つけ、水菓の  
 の、た、の、要、奴、の、ふ、と、い、ま、ま、く、そ、れ、の、い、ま、あ、ゆる、ハ、懸、ま、る、と、ち、り、  
 由、お、て、ぬ、れ、ハ、木、の、末、ハ、仙、覺、抄、に、許、奴、礼、波、久、余、仁、保、比、ま、と、り、ま、く、久、余、  
 は、別、の、百、二、三、字、間、字、あ、る、存、ま、り、を、仙、覺、の、考、ま、て、礼、奈、居、の、三、字、と  
 補、つ、る、よ、又、ゆ、い、の、ま、ま、に、と、れ、な、お、お、ち、う、て、ハ、か、ま、る、ぬ、ら、り、  
 考、お、け、り、と、ハ、考、六、葛、塚、ま、は、橋、の、氏、と、觸、れ、る、時、の、漸、ま、橋、ま、ま、と、  
 考、ま、る、ハ、ま、ま、と、枝、を、考、お、け、り、を、考、ま、る、系、の、あ、り、ま、ま、と、ま、ま、と、  
 考、ま、り、大、は、考、の、考、ま、る、ハ、別、枝、を、い、り、ハ、考、常、體、成、ハ、い、つ、ハ、考、一、き、懸、  
 の、ぬ、く、こ、い、ま、ま、と、考、ま、る、と、ま、ま、と、ま、ま、と、い、や、さ、あ、を、ま、ま、ハ、應、神、紀、  
 考、ま、る、ハ、あ、る、け、る、ま、ま、と、伊、吹、佐、佐、磨、曳、那、と、ま、ま、と、同、ド、く、考、ま、る、ハ、林、の  
 考、ま、る、ハ、あ、る、仁、の、考、ま、る、を、ま、ま、と、い、り、ハ、ま、ま、と、な、ハ、考、ま、る、

反歌一首











伊波禰布美也末古衣野由伎彌夜故敬爾末為之和我世  
いとねよみやまこゑのゆきみやこつあまわしわらせ  
乎安良多末乃等之由吉我敬理月可佐禰美奴日佐末禰  
をあらたまのとしゆさがつらつきるさねみぬひさまね  
美故敷流曾良夜須久之安良禰波保止止支須支奈久五  
みこよるそらやまぐしあらねばほととぎさきなくさ  
月能安夜女具佐余毋疑可豆良伎左加美都伎安蘇比奈  
つきのあやめくさよもきかつらきさかみづきあろびな  
具禮止射水河雪消溢而逝水能伊夜末思爾乃末多豆我  
ぐれといみづのゆきけそあてゆくつゆあまのそたづか  
奈久奈吳江能須氣能根毛己呂爾於母比牟須保禮奈介  
まくなこゑのむげのねもころよおひむむをほれちけ

伎都都安我末川君我許登乎波里可敬利末可利天夏野  
きてあまつきこゑをひさかつりあてつづのく  
能佐由利能波奈能花咲雨爾布夫爾惠美天阿波之多流  
のさゆりのえちのえちえにふもよとてあはしたる  
今日牟波自米氏鏡奈須可久之都禰見牟於毛我波利世  
けよをばどめてかこたなまかくしねこむおもかそりせ  
須  
ぢ

末伎ハ上のあふしありとわもちてハ官とと物おと古事化上  
卷思兼神者取持前事為政表十七もとすほろくをりてし  
よありこかぬちハ履ると俗かげとつひ少困よとハかおる  
とよとで又記録を結束をたかおとつうたふつねこ











須賣呂伎能之伎麻須久爾能安采能之多四方能美知爾  
 未めろぎのまきまきくふのあめのーたよものみちよ  
 波宇麻乃都采伊都久須伎波美布奈乃倍能伊波都流麻  
 いらまのつめいつくまきいみふふのーのいをつるま  
 泥雨伊爾之敝欲伊麻乃手都頭雨萬調麻都流都可佐等  
 でにいふーへよいまのをつよよろづままつるつこのさと  
 都久里多流曾能奈里波比乎安采布良受日能可左奈禮  
 つくきたるうのなりはいをあめよらさひのささるれ  
 波宇惠之田毛麻吉之波多氣毛安佐其登爾之保美可禮  
 ばうゑーたしまきーはたけしあさごとふまほこのれ  
 由苦曾乎見禮婆許己呂宇伊多美彌騰里兒能知許布我  
 ゆくそをみればくろをいたしみどりこのちこよの

其登久安麻都美豆安布藝豆曾麻都安之比奇能夜麻能  
 ごとくあまつみづあよきてそまつあーびきのやまの  
 多乎理爾許能見由流安麻能之良久母和多都美能於枳  
 たをりにこのみゆるあまのちらくもやろづみのおき  
 都美夜敵爾多知和多里等能具毛利安比豆安采母多麻  
 つみやべよたちわさとのぐせりあひてあめもたま  
 波禰  
 はね

いつもいそつるのいごりた後後うまのつえくハ新年祭花詞青  
 海原者棹枚不干舟艦能至留極大海尔舟満都氣氏自陸往道者荷  
 緒傳堅ユビタツ 繫根本根履佐久弥氏馬瓜至留限長道無間ヒキ 立都ツク 氣氏  
 とあまをいそつるのいごりた後後うまのつえくハ新年祭花詞青







字の字  
ニ誤

てむのひとちそでふりのはしいきのをになげのすこ  
良和多理母理布禰毛麻宇氣受波之太爾母和多之氏安  
らわとるもわよねもまうけずはしたふもわとてあ  
良波曾能倍由母伊由伎和多良之多豆佐波利宇奈我既  
らばそのへゆもいゆきわとらしたづさをとらあがけ  
利為氏於母保之吉許登母加多良比那具左牟流許已呂  
りぬておしほしきこともかたらひなくせむるこゝろ  
波安良牟平奈爾之可母安吉爾之安良禰波許等騰比能  
ハあらむをふしあきふしあらねばこととひの  
等毛之伎古良宇都世美能代人和禮母許已牟之母安夜  
ともしきこらうつせみのよのひとわれしこをしあや  
爾久須之彌往更年能波其登爾安麻能波良布里左氣見

五解十八 四十三

ふくたーみゆきうはるとーのはことにあまのころふあさけこ  
都追伊比都藝爾須禮

つ いひつきふられ

やまの河神代紀八十萬神會合於天安川邊とあれは神のこゝろ  
といつりあまてらふとて冠するは日の神と申す、まきのをハ息の  
供まゝ命のきづるとりつういじなげうさくう紙句舟も設てて  
向くその一ゆもハそよ後とんい紙のいハ後後、うながりぬてハ古る紙  
上巻宇那賀氣理豆至今鎮坐也とあり項、手とぬく、款、く、まひ  
居といふ、糸のほく、この紙もまのり、とそきこく紙句許已の下今  
本字とあるハ牟のほく、まのり、こゝろもハこれとん、ハハ脚、  
あやハ嘆詞、く、みハ新、き、う、て、牟のそ、改、ま、出、い、ひ、き、ま、は、れ  
ハ世人の代、紙、体、を、り、は、信、句、礼、と、あ、ま、い、ひ、ま、れ、こゝろ、を、し、も、と



よーもの記ふこそあまし存ちるし宣きいつ

反歌二首

安麻能我波し志和多世良波曾能倍由母伊和多良佐牟  
乎安吉爾安良受得物

あまののばをわつせらぶそのゆいわらさむをあきはあらすとも  
夜須能河波許牟可比太知且等之能古非氣奈我伎古良  
河都麻度比能欲曾

考十天漢已尙立而よりあり、此の略、後此を波ちを多くよめると  
会考べし、このい、年中の志、いつとて、考十七のあ、年の志

右七月七日仰見天漢大伴宿祢家持作之  
越前国掾大伴宿祢池主来贈戲歌四首

加加  
誤

忽辱恩賜驚欣已深心中含咲獨座稍開表裏不同相違  
何異推量所由率爾作策歟明知加言豈有他意乎凡質  
易本物其罪不輕正賊倍賊宜急并滿今勒風雲發遣徵  
使早速返報不須延回

勝寶元年十一月十二日 物所貿易下吏

謹訴 貿易人断官司 廳下

忽辱といひ驚欣といひ思ひけさくよろこぶ、表裏ハ違ふ、違ふといひ  
の、い、策ハ謀の、こ、貿易せる、と云、率、ち、作、策、と、作、ら、る、所、也、  
表裏をよ、違、つ、引、さ、く、と、ん、す、に、池、を、の、推、量、の、もの、で、く、わ、ら、う、こ、い、  
何、い、か、の、さ、け、あ、ら、ん、や、と、自、ら、こ、と、さ、さ、ん、と、い、う、り、下、は、の、神、さ、こ、  
貿易本物とハ、お、は、池、ま、よ、う、作、ら、る、さ、い、で、と、き、り、て、信、じ、し、む、よ、  
支、と、用、い、ど、し、て、他、の、もの、さ、く、信、じ、さ、と、い、ひ、る、こ、本、物、ハ、名、令、律、ハ、獲、本







返しこれ表す表上、裏さへは優てしるべきは、  
表沖ハ口のれぐと、おのれといふといふ、  
あし

渡利夫久路應婢都都氣奈我良佐刀其等邇天良佐比安  
流氣騰比等毛登賀米授

はあぶくろおひつげあづらせとごもんで、  
おびてくろおひつげあづらせとごもんで、  
かまきん、  
とつよ、  
てんてん

等里我奈久安豆麻乎佐之天布佐倍之爾由可年登於毛  
倍騰與之母佐禰奈之

いりあくあづまをさしてよまてにゆんもどよーとねあー

北比二稍  
ヲ稍二囉  
ヲ濁二誤

ふまハ古子紀八千戸神の世より許礼波布佐波受云い許母布佐波受云い  
ふまハ古子紀八千戸神の世より許礼波布佐波受云い許母布佐波受云い  
ふまハ古子紀八千戸神の世より許礼波布佐波受云い許母布佐波受云い  
ふまハ古子紀八千戸神の世より許礼波布佐波受云い許母布佐波受云い  
ふまハ古子紀八千戸神の世より許礼波布佐波受云い許母布佐波受云い

右歌之返歌者脱漏不得探求也

更来贈歌二首

依迎驛使事今月十五日到来部下加賀郡境面蔭見射  
水之郷戀緒結深海之村身異胡馬心悲北風乘月徘徊  
曾無所為稍開來封其辭云著者先所奉書返畏度疑歟  
僕作囑囉且惱使君夫乞水得酒從來能口論時合理何  
題強吏平尋誦針袋詠詞泉酌不竭抱膝獨咲能蠲旅愁







流奴之能等能度雨

たきふもかきよこししやつことぞあれありけるぬーのとのおとに  
髪沖まうてこの髪まうてよこさの横さるるかたしとみくみことつよさか  
ふかくみくしつしここの髪まふし横さるるたきよこし君の為我の奴  
まてまこととせがーハ紀子大人と。君と御をうしとあるま同ーまてまの  
能ーとまうぬーとこの髪神紀のちよ伊弟<sup>イデ</sup>豆由<sup>カカ</sup>分那<sup>カ</sup>跡和能等能度  
鳥とまうとつこかかききと髪沖にいれどは紀のちちのこのとるいどーのまー  
よのこの殿戸こり殿戸とてきこえり

波里夫久路已禮波多婆利奴須理夫久路伊麻婆衣天之  
可於吉奈佐備勢牟

をちよくるこれたつぬよちよくるいまえてーのおおきなさびせん  
をちよくるこの煙袋に景行紀以極出火和名抄燧<sup>此字</sup> 敷志が集子

かおの火うちかきよこしとてまの柳の葉まうらつけりいれや  
あとのこのよまうくまわるとつこあきとく極袋ハ老人のまう  
そのふいあねど自ら翁たれがくいてるまう翁まうハ翁進のまうまう  
のまうまう今いれてつこハ針袋に翁まうらつれハくはまうまう  
もるまうまうまう

宴席詠雪月梅花歌一首

由吉能宇倍爾天禮流都久欲爾烏梅能播奈乎理天於久  
良牟波之伎故毛我母

ゆきのうまこれつよよけらめのをまをりておくらんけきこもがも  
けきまをりてまをりておくらんけきこもがも

右一首十二月大伴宿禰家持作 くらねのまうまう元鹿物とん

て播り







縁<sub>下</sub>檢察墾田地事宿礪波郡主帳多治比部北里之家于  
時忽起風雨不得辭去作歌一首

夜夫奈美能佐刀雨夜度可里波流佐米爾許母理部追牟  
等伊母爾都宜都夜

やよまそのせもんやとかうはるるあにこわうつむといもれつげつや  
ヤルももハ地名くこもくつおしハ集中あつみとりま日ドクをよつ  
くもつ居くとりよ

二月十八日守大伴宿禰家持作

一本十一日乙卯と本家持作の二字と脱せし言本ととく補

萬葉集卷第十八

010190519347



